

角館祭りのやま行事

毎年 9 月 7 日から 9 日にかけて行われる角館祭りは、角館の歴史的な通りに色彩と活気の旋風をもたらします。1799 年の佐竹北家の史料に最初の記載があるこの祭りは、繁栄、豊穡、息災を祈願するものです。

この祭りは何百年にもわたって開始当初からほとんど変わらない形で毎年開催されています。角館祭りは 1991 年に国の重要無形民俗文化財に指定され、また、2016 年に日本各地の 33 の祭りのひとつとしてユネスコの無形文化遺産に登録されました。

祭りの期間中、角館の町の江戸時代から残る通りを「やま」と呼ばれる手の込んだジオラマを載せた大きな木の台車が引き回されます。ジオラマには武士の人形と元禄時代（1688-1704）に起源をもつ歌舞伎の人形が使われます。これらの人形は黒い綿で作られた象徴的な山、もっこの周りに配置されます。

深い紫色の着物を着た踊り手と太鼓、笛、三味線、摺り鉦の奏者がやまに乗ります。やまは、最初に角館神明社と成就院薬師堂に立ち寄り、そこで踊り手とお囃子が神に舞を奉納します。もともとは江戸時代（1603-1867）の大半において角館を統治していた佐竹北家の当主の前でも舞が上演されていました。この伝統も今日も続いており、今では佐竹北家の子孫の前で舞が舞われています。

やまの通る道順は決まっていないため、通りを進んでいると他のやまと鉢合わせすることがあります。しかし、角館の道は 2 つのやまが通るには狭すぎなので、どちらのやまを進め、どちらのやまを引き返すかについて交渉が必要となります。交渉の決裂は避けられず、二つのやまは「やまぶっつけ」と呼ばれる、互いのやまを力いっぱいぶつけ合う派手な模擬戦闘に突入します。この戦いは祭りのハイライトで、通常 9 月 9 日の夜に起こります。この戦いがいつどこで発生するかを予測するのは不可能ですが、観光客が見られるよう事前に準備されたやまぶっつけのパフォーマンスもあります